

2025年度

国際政治経済学部 学校推薦型選抜入試

出題の意図・解答例

**出題の意図**

2025年度の学校推薦型選抜小論文では、本学部の受験生にも身近な市町村の公立図書館に関する読売新聞2024年3月4日朝刊の記事から、一部を抜粋し、課題文とした。

問一は、課題文の内容を400字以内にまとめることを求めている。記事に沿って抜粋、要約するにとどまるのではなく、記事全体を読解し、この記事から得られる情報を400字以内にまとめることが必要である。本学部に入学後必要な情報を整理、読解し、自己の視点からプレゼンテーションすることができると測定する意図がある。

問二は、自治体が運営する図書館の役割について、意見を400字以内で述べることを求めている。公立図書館に求められる役割を定義付け、そこから必要な要件を導き、自らの意見を述べる必要がある。本学部に入学後に、さらに育成される、根拠を示して自説を展開する能力の基礎を有しているかどうかを測定する意図がある。

**解答例**

問一

公立図書館は1970年代以降、設置が進んだが、建て替え時期を迎えた2010年代から、街の中心部に移転するケースが目立っている。これまで市街地の中心的存在だった商業施設が閉鎖されていくなか、建て替え時期を迎えた公立図書館を移転させ、空洞化した市街地の再生拠点として活用されるようになってきた。

公立図書館は、市民の読書を推進し、知る権利を保障する基盤である。しかし、公立図書館の設置は自治体の義務ではない。今年度の設置率は78%であり、図書館がない自治体も多い。公立図書館があっても、予算には限りがあり、公立図書館の資料購入費も抑制されている。

一方、同じ役割を担う書店も経営環境が厳しい。そこで、本を無料で貸し出す図書館と、販売する書店との連携が各地で見られるようになった。この連携により、市民の読書ニーズを双方で支え、書店にも新刊書などの売上拡大というメリットが生じている。すみ分けながらも相乗効果が期待されている。

問二

自治体が設置する公立図書館は、市民に読書を通じて多くの知識を提供し、また、地域の貴重な資料を収集、所蔵、展示することで、さまざまな文化を、世代を超えて継承させる役割を担っている。さらに、市民間のコミュニケーション維持、文化的な中心拠点という役割も求められていると考える。このためにも、公立図書館は市民にとってアクセスが便利であり、かつ滞在型の施設であるべきだ。この点から、課題文にある街の中心地への移転は、望ましいといえる。また、街が空洞化していくなか、街の再生という自治体の経済施策にも沿うものと評価できる。

しかし、自治体財政は厳しい。公立図書館の資料購入予算にも限りがある。他方、書籍類の販売もネット販売が進み、リアル店舗の経営は厳しく、各地で存続が危ぶまれている。手に取ってお気に入りの書籍を選ぶという行為は貴重な体験である。そこで両者が連携し、公立図書館は自己の役割に注力することが必要と考える。